

平成19年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成19年9月28日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

トルコギキョウえそ輪紋病の発生について

1 発生の経緯

平成19年7月、県内においてトルコギキョウにえそ斑症状が見られる株が発生し、宮城県農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部で遺伝子診断(RT-PCR-RFLP法)を行った結果、アイリスイエロースポットウイルス(IYSV)が検出された。本ウイルスによる被害は県内では初めてである。

2 発生状況

- (1) 発生作物 トルコギキョウ
- (2) 病害名 トルコギキョウえそ輪紋病
病原ウイルス アイリスイエロースポットウイルス (*Iris yellow spot virus*; IYSV)
- (3) 栽培様式 施設栽培

3 本病の伝染経路及び病徴

- (1) 本病はIYSVを保毒したネギアザミウマによって媒介される。
- (2) 一度ウイルスを保毒したネギアザミウマは終生ウイルス伝搬能力を持つ。(永続伝搬)
- (3) 汁液伝染, 種子伝染, 土壌伝染はしないと考えられる。
- (4) 本ウイルスに感染したトルコギキョウの症状は、葉にはえそ輪紋, えそ斑点を生じ、茎にはえそ条斑を生ずる。
- (5) 寄主植物は表1のとおりである。

表1 現在確認されている寄主植物一覧

科名	植物名
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ユリ科	タマネギ, ネギ, ニラ, リーキ
ヒガンバナ科	アマリリス, ユーチャリス, クンシラン
アヤメ科	ダッチアイリス
ヒユ科	センニチコウ



トルコギキョウえそ斑症状

4 防除対策

媒介虫の防除

- (1) 本ウイルスの媒介虫であるネギアザミウマの防除を行う。(表2参照)
- (2) 罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋に密封するなど適切に処分する。
- (3) ほ場周辺の雑草等もネギアザミウマの増殖源となるため、除草や防除等を行い、ほ場周辺の環境整備に努める。
- (4) 施設開口部を寒冷紗や防虫網(目合い1mm以下)で被覆し、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。
- (5) 無病徴でも感染している可能性があるため、新しく導入した苗などは取り扱いに注意する。

表2 アザミウマ類の防除薬剤(対象作物:トルコギキョウ,平成19年9月25日現在)

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量 / 希釈倍数	使用方法
アセフェート粒剤 (ジェネレート粒剤, ジエイエース粒剤, スミフェート粒剤)	発生初期	5回以内	1株当たり1~2g	株元散布
フルバリネート水和剤 (マブリック水和剤20)	発生初期	2回以内	4000倍	散布
トラロメリン水和剤 (スカウトフロアブル)	-	5回以内	2000倍	散布

この病害に関するお問い合わせは下記まで

宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号(宮城県仙台合同庁舎内)
Tel 022 - 275 - 8982, Fax 022 - 276 - 0429

宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部, バイオテクノロジー開発部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地
Tel 022 - 383 - 8125, Fax 022 - 383 - 9907
http://www.pref.miyagi.jp./res_center/